



野村インベスター・リレーションズ株式会社 個人投資家様向けIRセミナー

 内外トランスライン株式会社
International Freight Forwarder

プライム市場 9384

2024年6月21日

▶ 会社概要

設立

▶ **1980**年

連結売上高

▶ **322**億円 (2023年12月期) (2024年業績予想**340**億円)

従業員数

▶ **722**名 (単体**233**名) (2023年12月末現在)

国内事業所数

▶ **6**拠点

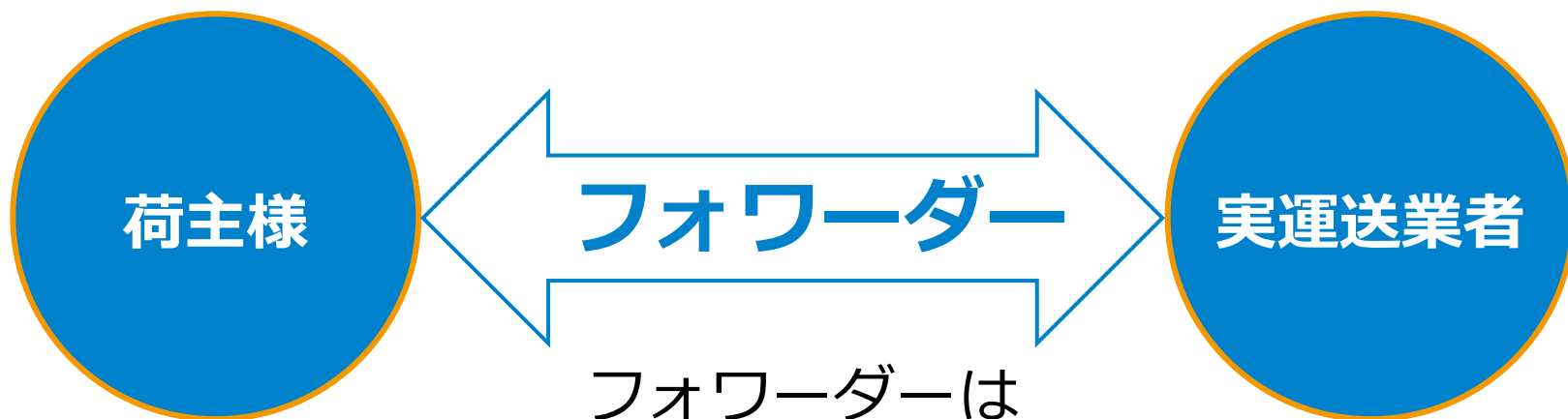
グループ会社

▶ 国内**2**社 海外**12**社 (非連結1社を含む)

フォワーダー（利用運送事業者）

船舶や航空機を所有せず、船会社や航空会社からスペースを借りて利用し、国際輸送を行う事業者です。

そのなかで海上輸送を行う利用運送事業者をNVOCC (Non-Vessel Operating Common Carrier) と呼びます。



お客様の輸送をコーディネート
しています

▶ コンテナ船とは?

日本の貿易に占める海上貨物の割合は、
トン数ベースで**99.6%**(2022年) ※1

海運は、わが国の貿易に不可欠な輸送手段であり重要なインフラです



ONE Innovation ※2

出典： ※1 公財日本海事センター/Shipping now 2023-2024

※2 OCEAN NETWORK EXPRESS

▶ 混載輸送 (LCL※1) の仕組み

1つのコンテナを複数のお客様でシェア 日本発輸出混載シェアトップ



船会社への運賃支払は
コンテナ単位

コンテナに積載する
荷主数、物量が**売上**に直結

顧客への運賃請求は、RT※2単位
効率良く積載することで
利益に直結

※1 Less than Container Load

※2 容積1m³または重量1tを1RTとして換算し、いずれか大きい方を適用して運賃を算定する

▶ 出港時のコンテナ内

積載効率を上げることは
環境に優しく、
当社の利益率向上に直結

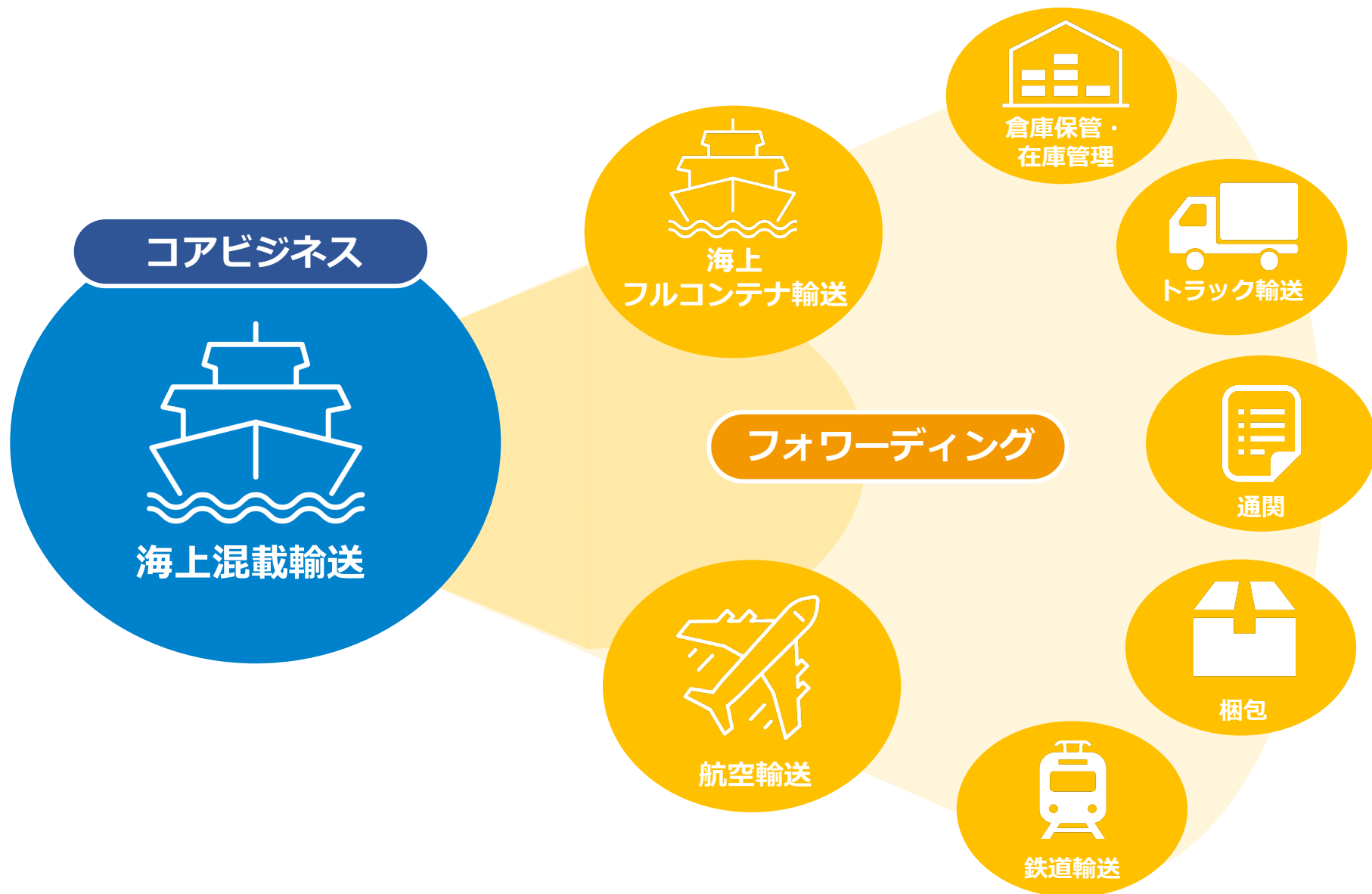
効率的な積載



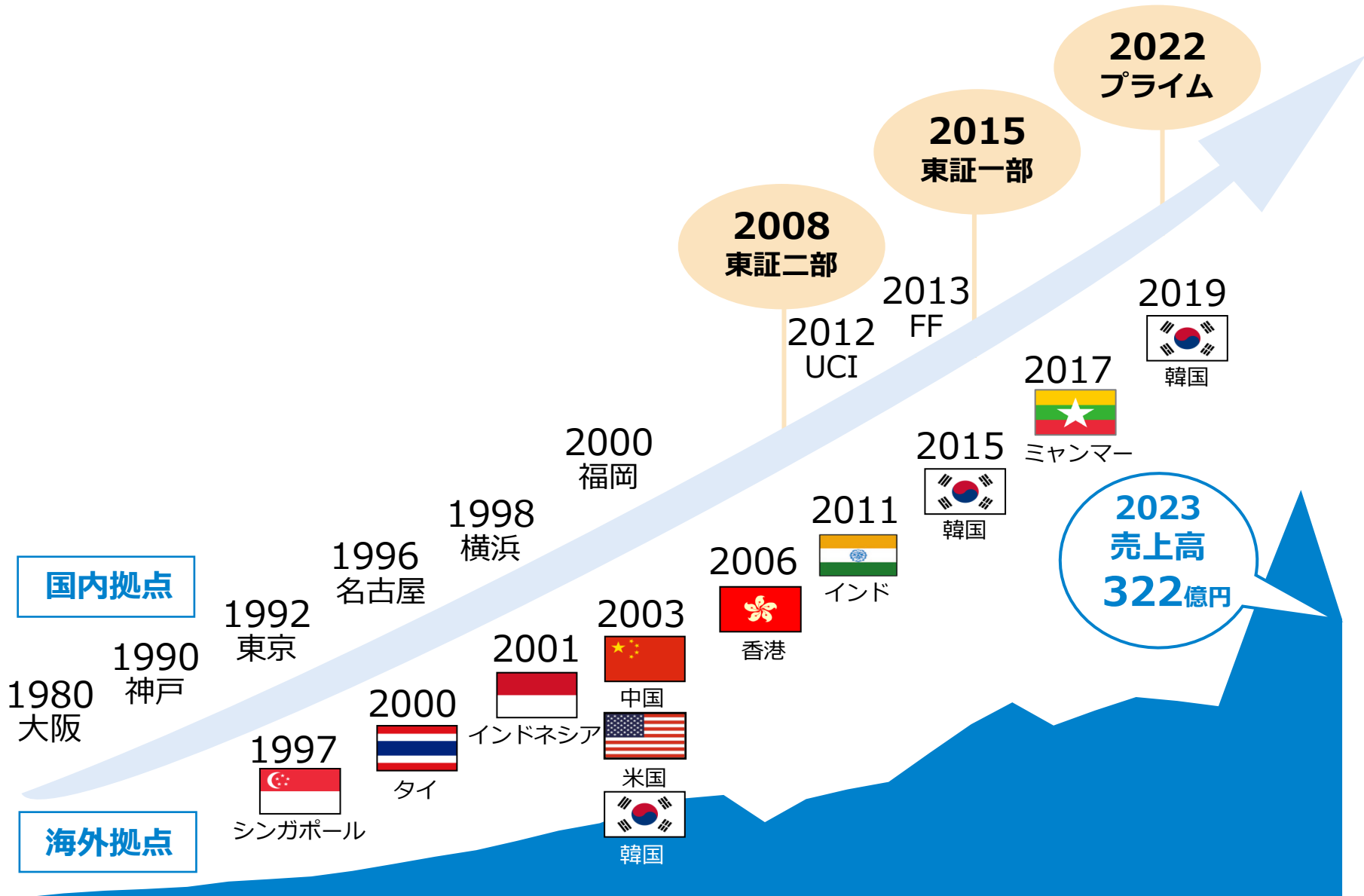
非効率な積載



▶ 当社グループのビジネス



▶ 当社グループの成長の軌跡



強み1 44年間の輸出混載の実績

1

顧客基盤

多数の取引先
同業他社様

特定業種の
影響少

2

**船会社との
リレーション**

長い取引歴による
船会社との
信頼関係

調達力

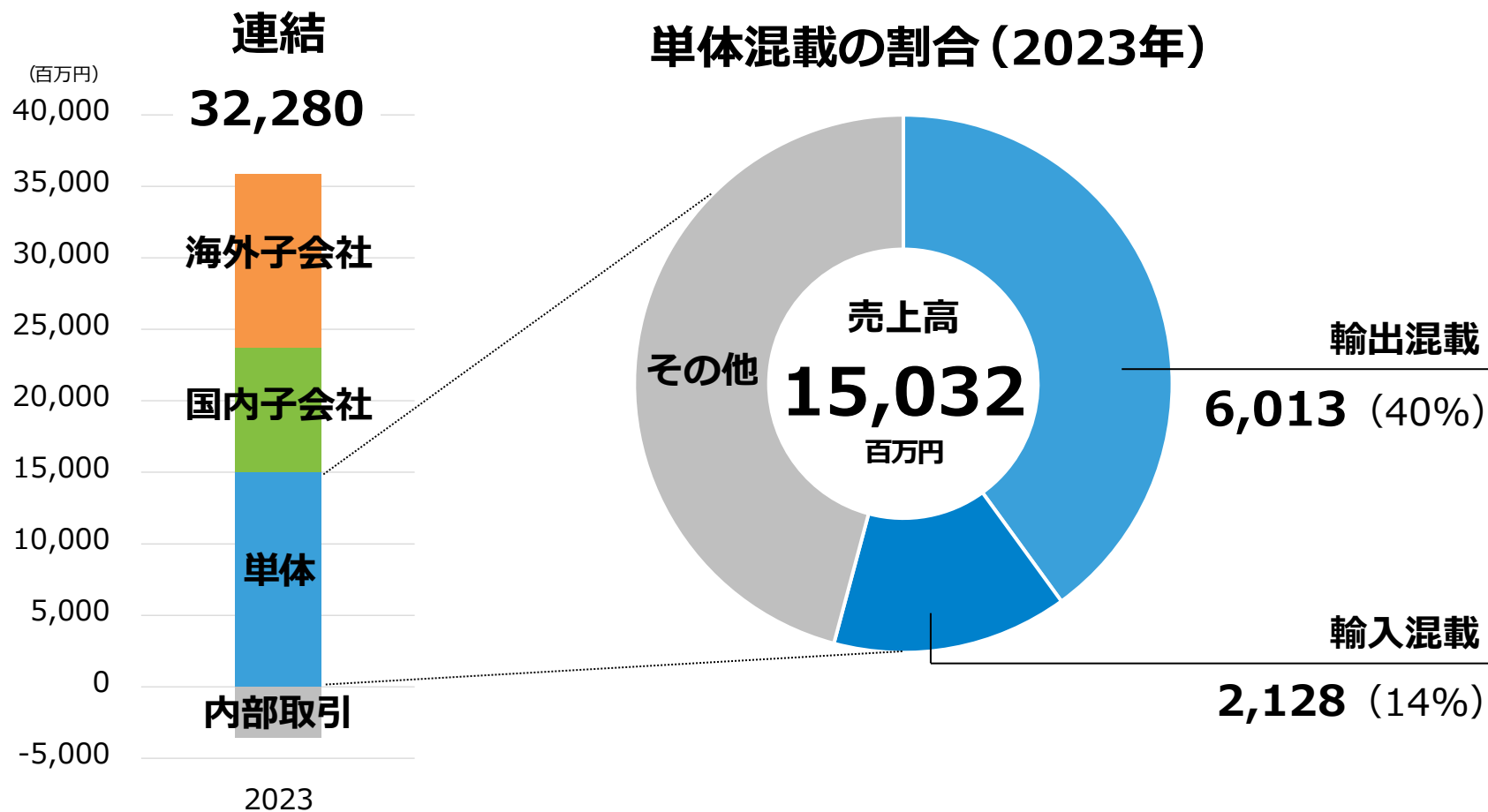
3

**海外現法の
収益**

現地における
輸入サイドビジネス
の取込み

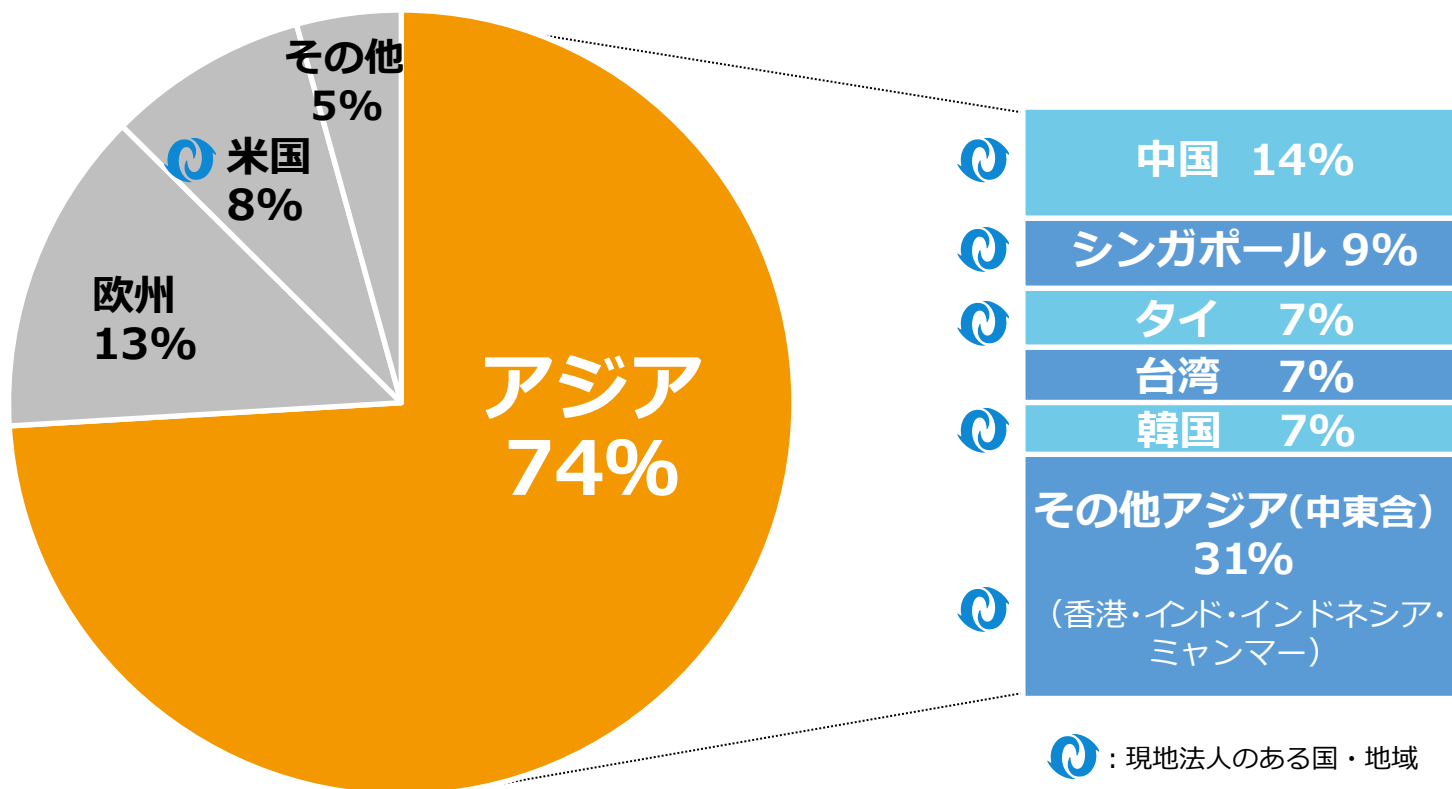
顧客の利便性向上
グループ収益の拡大

強み2 収益性の高い海上混載が主力商品

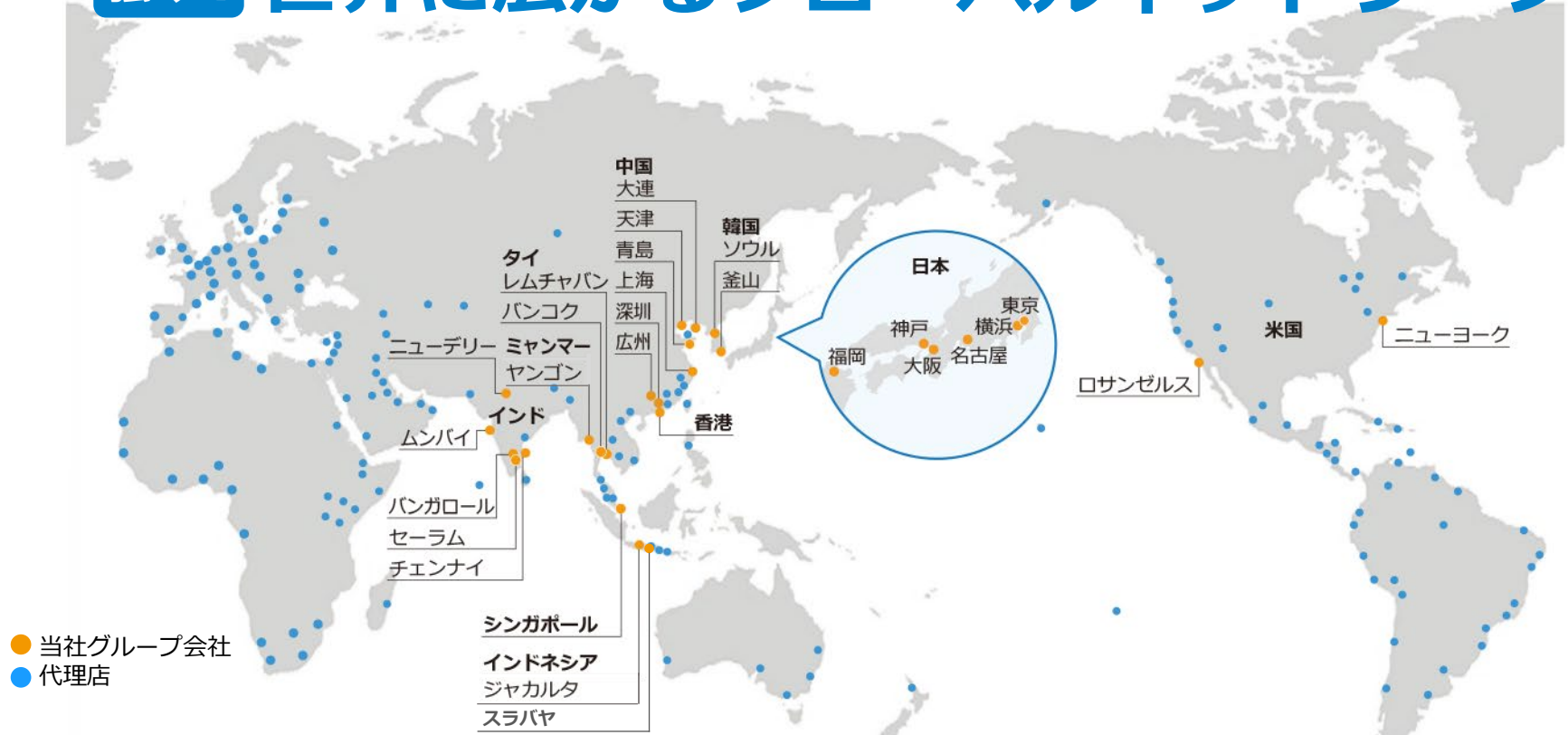


強み3 成長を続けるアジア向け輸出が主力

単体エリア別輸出混載売上シェア(2024/1Q累計)



強み4 世界に広がるグローバルネットワーク

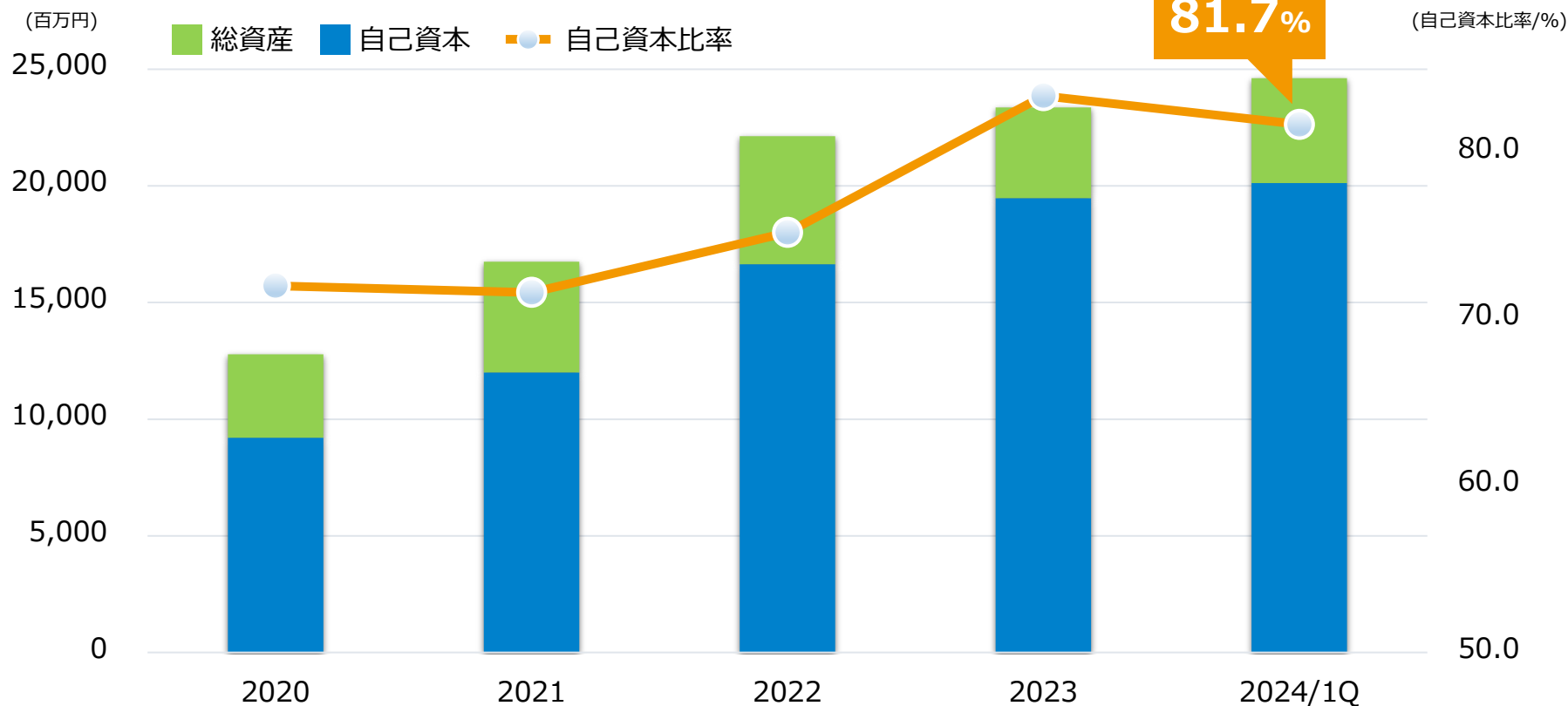


世界**400**か所以上の
地域へ輸送

保管・通関・配送など
フォワーディング
サービスの提供

強み5 有利子負債なし、力強い財務基盤(連結)

総資産と自己資本比率



▶ 連結貸借対照表 (2024/3月末)

(百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	18,043	流動負債	2,660
現金及び預金	14,405	買掛金	1,457
売掛金	2,557	未払法人税等	328
固定資産	6,582	固定負債	904
建物及び構築物	5,046	退職給付に係る負債	369
		負債合計	3,565
		(純資産の部)	
		株主資本	18,129
		資本金	243
		資本剰余金	372
		利益剰余金	18,558
		自己株式	-1,046
		その他の包括利益累計額	1,989
		非支配株主持分	941
		純資産合計	21,060
資産合計	24,626	負債純資産合計	24,626

自己資本比率[※]
81.7%

※自己資本：20,118百万円

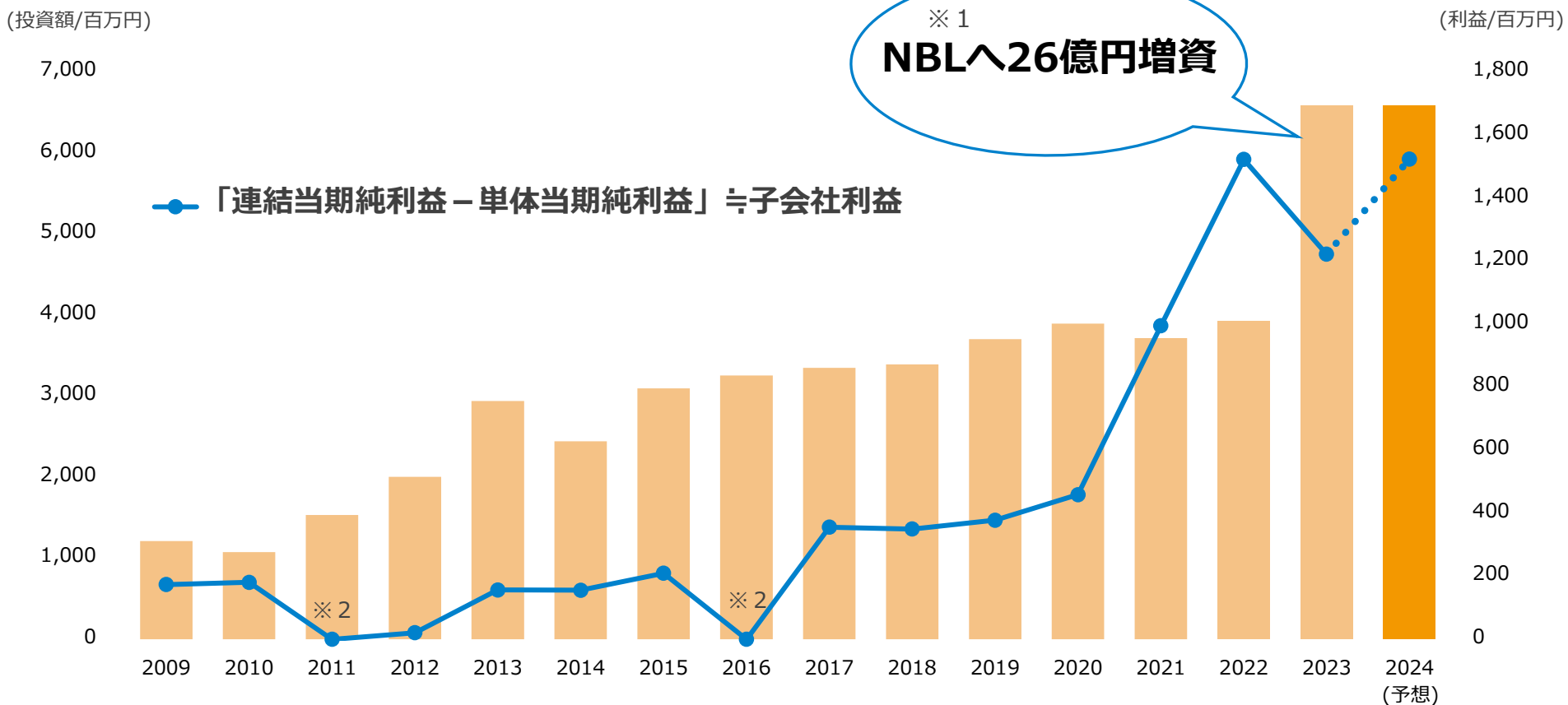
▶ 連結実績 (2024/1Q)

(百万円)

	2023/1Q	2024/1Q	対前年 増減率	2023	2024 業績予想 (2月9日)
売上高	8,366	7,948	△ 5.0%	32,280	34,000
営業利益	1,331	827	△ 37.8%	4,203	4,600
経常利益	1,391	972	△ 30.1%	4,446	4,800
親会社株主帰属 当期純利益	954	671	△ 29.6%	3,041	3,300
為替レート ¥/US\$	132.39	148.62			

▶ 当社の投資の推移

単体の貸借対照表上の「投資その他資産」推移



※ 1 NBL…内外釜山物流センター(韓国の連結子会社)

※ 2 2011年、2016年の「連結当期純利益－単体当期純利益」については、連結でのれん減損損失等を計上したことにより、「連結当期純利益<単体当期純利益」となったため、ゼロで表示

▶ グループ業績ハイライト(2024/1Q)

▶ 単体

- 輸出混載貨物が低調な取扱となったことが要因となり、減収減益。

▶ 国内子会社

<ユーシーアイエアフレイトジャパン>

- 主力とする航空輸送は好調だが、海上輸送の取扱が減少したことが影響し、減収減益。

<フライングフィッシュ>

- 紅海情勢の混乱等により減収、コストの削減努力等により利益率を高め増益。

▶ 海外子会社

- 倉庫事業の取扱が堅調に推移しているインド及び昨年物流倉庫を取得した韓国等が売上を伸ばし増収となったが、日本からの混載貨物減少の影響を受け減益。

物流業界の状況



- 紅海情勢の悪化に伴い需給がひっ迫し、海上運賃は一時的に上昇。
- 直近ではアジアにおいてコンテナ需要は回復傾向。



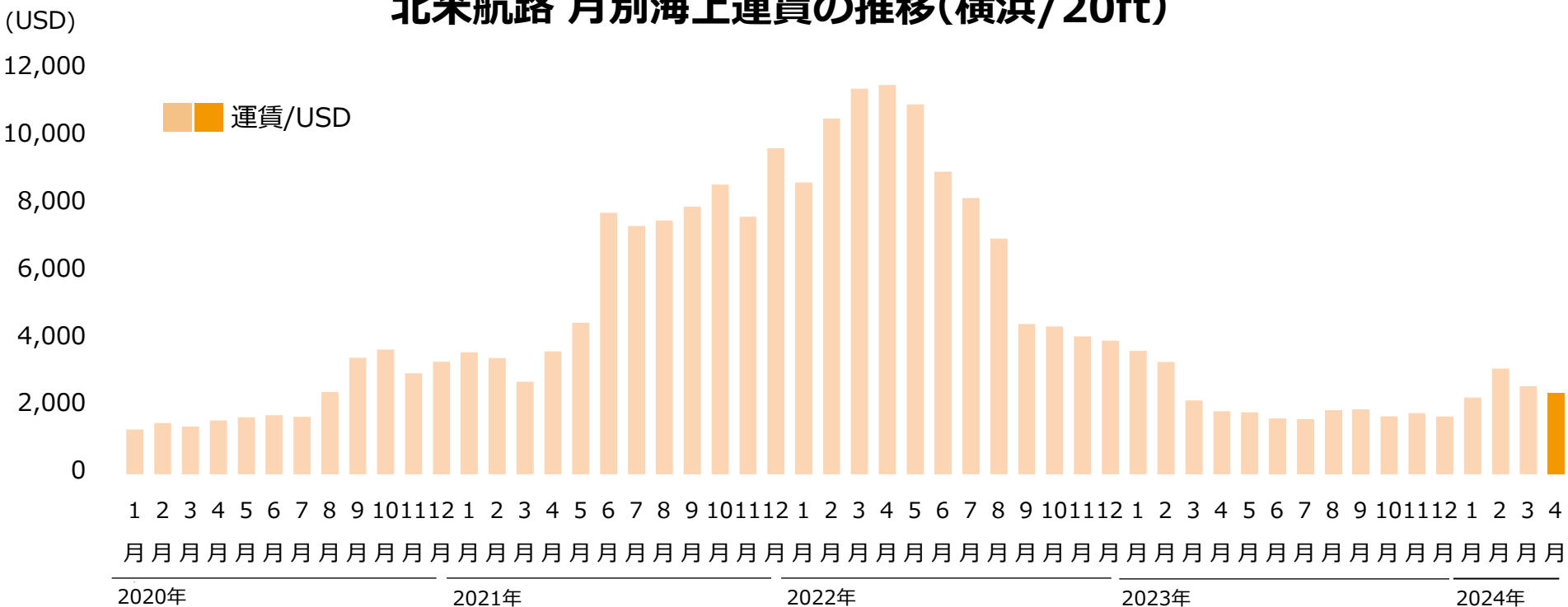
- 紅海情勢の影響を受け、納期の早い貨物については、海上輸送から航空輸送にシフト。
- 中国発のEコマース需要の高まりにより欧米向けのスペースが不足し、価格は上昇。



- 海上運賃はドル建てで決定されるため、円安は当社にとってはプラス要因。

▶ 運賃の動向について

北米航路 月別海上運賃の推移(横浜/20ft)



横浜/ロサンゼルス航路コンテナ運賃動向

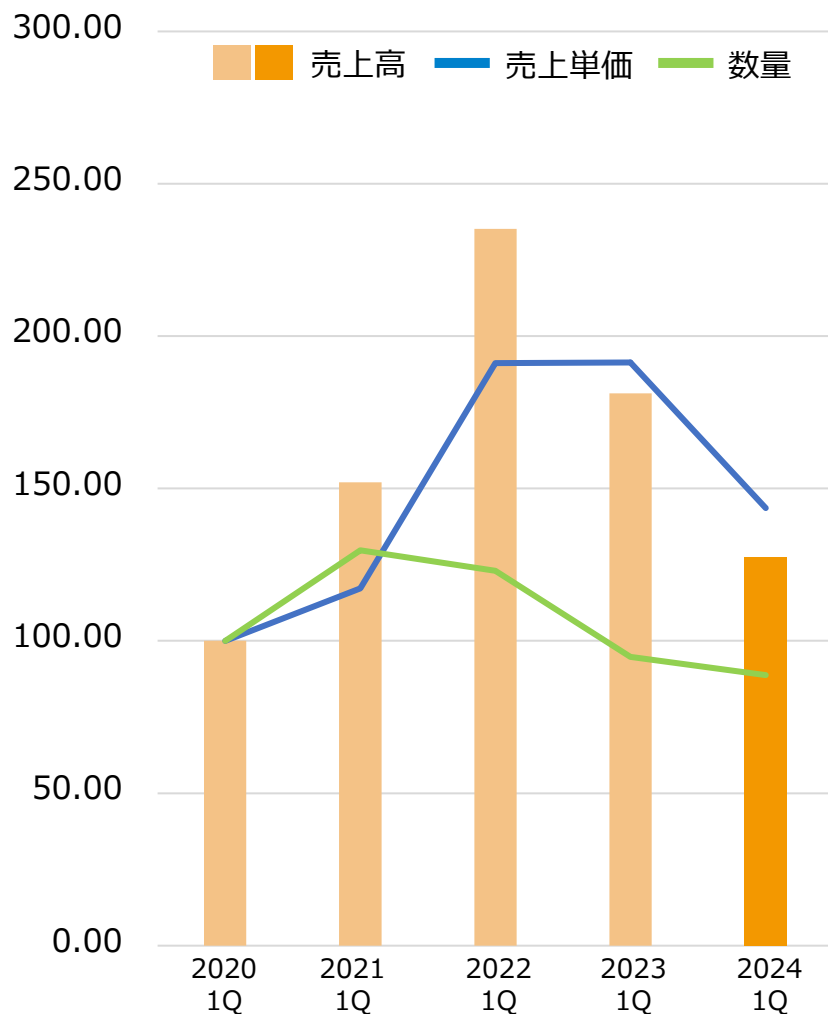
2024年5月28日
(USD)

年	サイズ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2023年	20ft	3,662	3,332	2,192	1,871	1,840	1,657	1,637	1,894	1,908	1,725	1,812	1,714
	40ft	4,946	4,632	3,486	2,563	2,328	2,166	2,106	2,484	2,499	2,248	2,382	2,230
2024年	20ft	2,281	3,138	2,616	2,414								
	40ft	2,832	3,990	3,384	3,122								

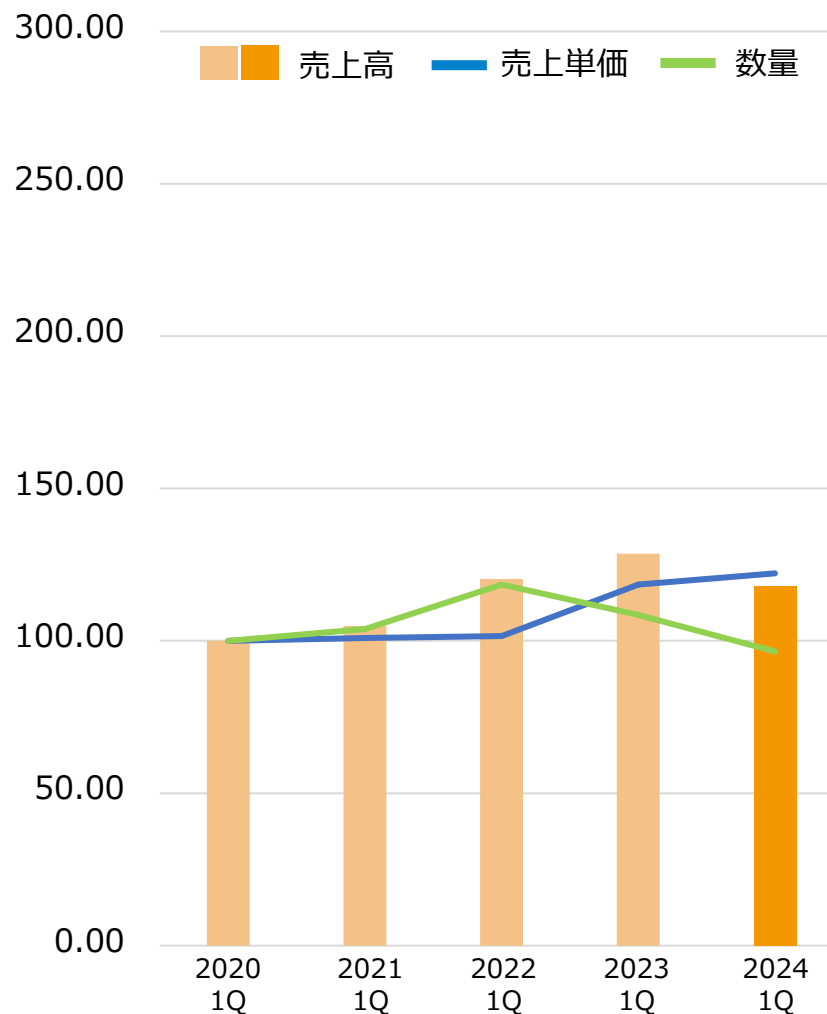
※(公)日本海事センター：コンテナ運賃動向資料を基に当社にて作成

▶ 単体混載売上高・売上単価・数量推移(2024/1Q)

輸出



輸入



※2020年1Qを100とする

▶ 第5次中期経営計画（2023年～2027年）※1

当社グループが目指すもの

国際物流における
最高のソリューション
プロバイダーでありたい!

基本方針

真の国際総合フレイト
フォワーダーを目指す

本業の混載で
国内シェアトップ
維持拡大

第2の本業として
フォワーディング
を徹底的に拡大

グループ
売上高
700億円
(2027年度)

当期純利益※2
50億円
(2027年度)

※1 中長期的視点で経営する目的で5か年で設定

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

[2023年2月10日公表資料]

▶ 成長戦略(中期経営計画 施策と投資)

国内

混載事業

事業ノウハウやネットワークを活かし
業界地位を堅持、安定的収益確保を実現
させる

フォワーディング事業

グループ間の最適な組織編成により売上
と利益を増加させる



海外

代理店

さらなる関係強化を図るとともに再編を
視野に入れた効率的な運用を行う

既存拠点の業務拡大

現地スタッフによる地場企業向けの輸出
営業のインフラを構築、日本以外への
輸出獲得を目指す

新規拠点設立

今後成長が期待できるエリアでの新規拠
点を設立に取組む



スラバヤ支店
(新規拠点)

投資

アセット事業

海外を中心に倉庫等のアセットを取得、
事業領域の拡大を図る

M&A等

M&A、資本提携、業務提携により既存事
業の規模拡大やシナジー効果を生み出す

人材・教育

国内外ともに新規事業、営業スタッフ拡充
等の人材投資や社員能力向上のための
教育研修投資を行う

DX

専門部署を構え、営業支援、業務効率化、
のため一層のDX推進を図る

ESG・SDGs

CGコードに則って対応し、環境分野につ
いては、温室効果ガスの排出量削減対策
を講じる

▶ インドネシア新支店開設

2023年
9月

インドネシアの連結子会社 PT.NTL NAIGAI TRANS LINE INDONESIAが スラバヤに支店開設

インドネシア第二の都市で、
ジャワ島東部地域の経済活動の
中心として重要な役割を担っている
スラバヤに支店を開設。

インドネシア



▶ アセット事業「韓国で倉庫を取得」

韓国の連結子会社

2023年
5月

内外釜山物流センター（NBL）

釜山で3万m²物流倉庫を取得

- 取得金額：約180億ウォン（18億円）
- 倉庫面積：約3万240m²



韓国でのビジネス拡大のため、親会社である内外トランスラインは、NBLに260億ウォン（26億円）を増資。

▶ ベトナムにおける子会社設立

国内の連結子会社

2024年
秋

フライングフィッシュ株式会社が ベトナム・ホーチミン市に子会社設立

- **商号**：Flying Fish Vietnam Co.,Ltd.（仮称）
- **所在地**：ベトナム社会主義共和国ホーチミン市
- **資本金**：8,200百万VND
- **会社設立年月**：2024年10月（予定）



ベトナム



▶ IR活動 (2024)

2月

- 2023年12月期
決算発表
- **2023年12月期
機関投資家向け
決算説明会
(野村IR)**

3月

- 定時株主総会

4月

- 2024年12月期
第1四半期
決算発表

6月

- **個人投資家向け
説明会
(野村IR)**

7月

- 2024年12月期
第2四半期
決算発表

8月

- **2024年12月期
第2四半期
機関投資家向け
決算説明会
(野村IR)**

10月

- 2024年12月期
第3四半期
決算発表

11月

- **個人投資家向け
説明会 (予定)**

当社は経営理念のもと SDGsと行動規範を関連付け グループ経営を推進



(経営理念・行動規範 2006年7月制定)

※内外トランスライングループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

■ 当社の行動規範(抜粋)とSDGs

私たちは高い倫理と協調の精神を持って行動します

- 女性活躍推進
- シニア雇用
- 育児・介護休業制度



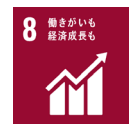
私たちは会社の仕事を通じて社会への貢献を果たします

- 地域社会の発展・活性化・次世代育成
- 環境負荷低減
- CO₂排出量の算出

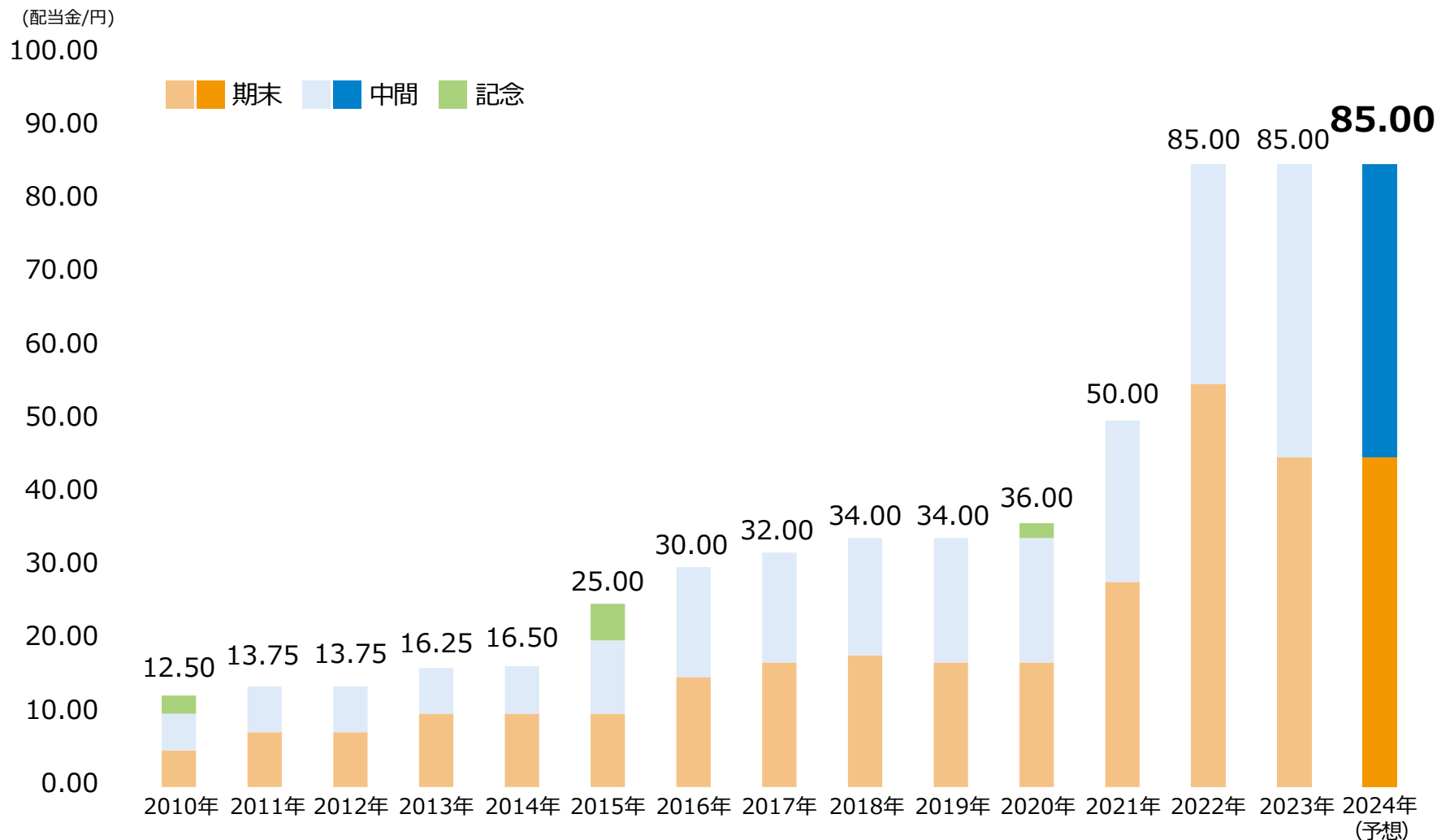


私たちはたゆまぬ努力により自己の成長を図り、社会を発展させてゆきます

- 社会・経済の発展に貢献



▶ 配当金の実績と予想



※2012年と2015年6月末日を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、上記金額は分割後配当額にて表示

▶(ご参考) 株主優待制度



対象株主

毎年12月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された
下記保有株数に応じた株主様

100株～200株未満

カタログより1,500円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



200株～4,000株未満

カタログより2,500円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



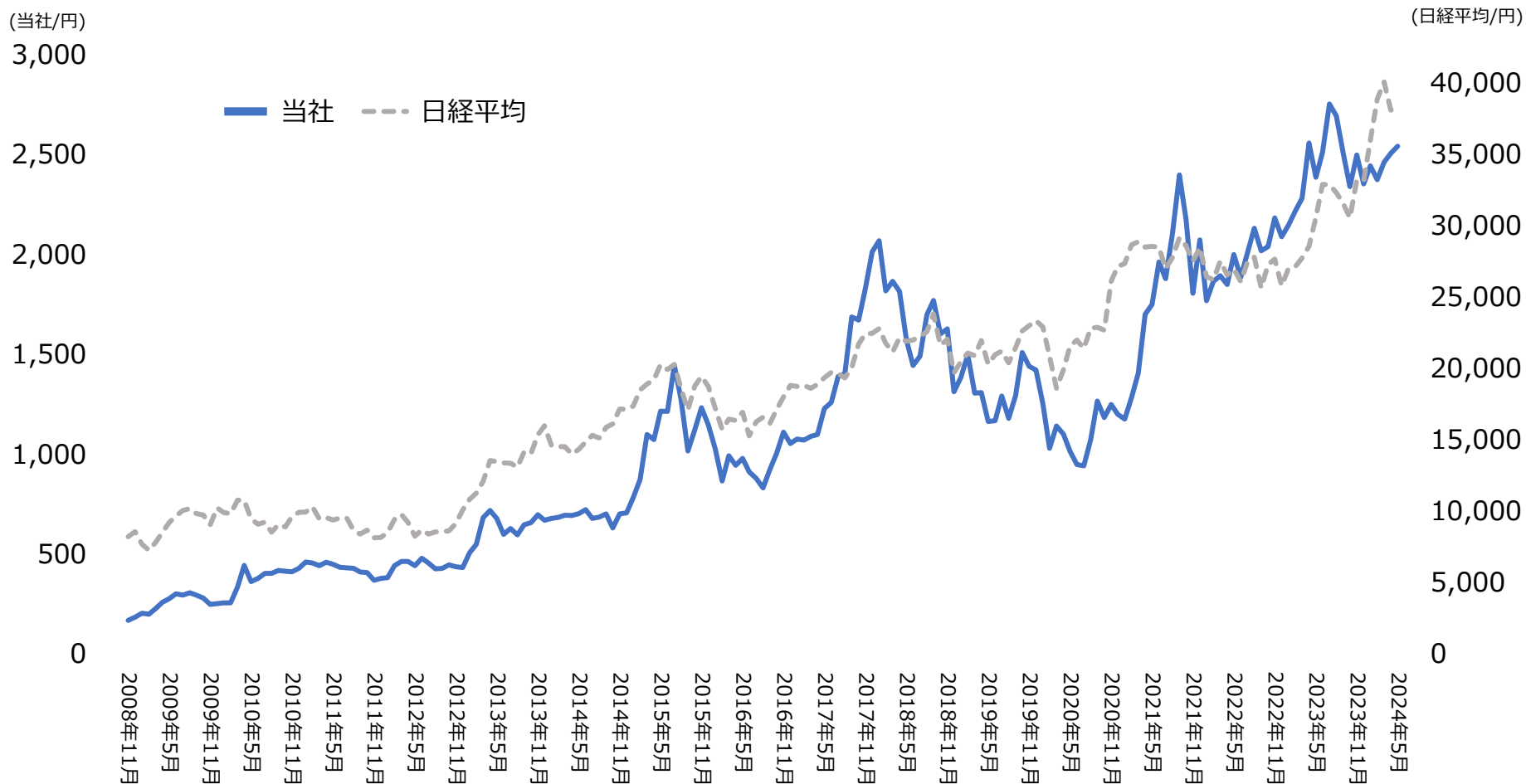
4,000株～

カタログより5,000円相当
の商品か日本ユニセフへの
寄付を選択



※写真は2023年12月期株主優待カタログ掲載商品の一例

▶ 当社株価と日経平均の推移



※2012年と2015年6月を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、分割後の株価を基に算出
 出典：Yahoo! JAPANファイナンスを基に当社作成（株価は月末終値）

株価	2008年11月	2024年5月
当社	190	2,562
日経平均	8,512	38,487

ご清聴ありがとうございました



お問合せ先：取締役 IR担当 人見 茂樹

大阪本社 大阪市中央区備後町2丁目6番8号 サンライズビル5階

TEL 06-6260-4800 **URL** <https://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。